

令和4年度 ゆずり葉こども園事業報告

1. 概要

①運営報告

- 守口市における0歳児の入園希望者は減少傾向にありますが、当園においては定員以上の申込み希望者がありましたが、最低基準職員の確保が難しいことから、0歳児が3名マイナスの状況からスタートしました。次年度においては職員体制を整え、4月から定員数を確保して運営したいと思っております。
- 職員採用については厳しい状況が続いています。職員の半数が非常勤職員ということからシフトが組みにくい状況で改善させることが出来ず、課題として残りました。令和5年度は2名の新卒職員を採用することが出来たので少しでも改善されることを期待します。
- 年度末の3月に第三者評価を受審しました。結果については令和5年度に入ってからになります。第三者評価受審に向けて勉強会を行う中で、保育の内容が整理で出来る等、良い機会になりました。今後も継続して定期的に研修や勉強会を行っていきたいと思っております。
- 老朽化に伴い、園舎の建て替え工事が開始しました。園児や保護者、近隣の方、職員の安全を確保しながら、工事を進めてもらっています。地中障害の影響から工事遅れているとのことでしたが、現在の予定では令和5年10月中には完成の予定です。

②定員

111名			
利用児童数	1号認定児	1名 (定員 3名)	
	2号認定児	68名 (定員69名)	
	3号認定児	41名 (定員39名)	合計110名

③開園日数 292日 (日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園)

教育日数 42週

④開園時間 平日、土曜日7:30~19:00

⑤保育時間

★2号・3号認定児

平日、土曜日	早朝保育	7:30~8:30
	通常保育	8:30~16:30
	延長保育	保育短時間児 16:30~19:00
		保育標準時間児 18:30~19:00

★1号認定児

平日	早朝保育	7:30~8:30
	通常保育	8:30~13:30
	預かり保育	13:30~19:00

⑥職員数

園長 1名、主幹保育教諭 2名、看護師 1名 保育教諭 18名（うち非常勤9名）、
保育補助 2名、その他保育補助 2名（無資格）、子育て支援員 2名
学校内科医・学校歯科医 各1名（年2回検診実施）、学校薬剤師 1名（年2回検査実施）
給食委託業者からの栄養士 1名、調理員 3名

2. 教育保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性を・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド、1日の保育の流れを中心に子ども達が生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感など）を育む。

④クラス編成及び職員配置

	【4月1日】	【3月1日】	
0歳児 ひよこ組	6名	10名	職員数 3名乳児フリー1名
1歳児 あひる組	13名	13名	職員数 2名
2歳児 もも組	18名	18名	職員数 3名
3歳児 あか組	23名	23名	職員数 2名 幼児フリー1名
4歳児 き組	23名	21名	職員数 2名
5歳児 あお組	24名	24名	職員数 2名

（うち1号認定児1名）

⑤教育・保育内容

- ゆるやかな育児担当制、少人数のグループ保育での活動を行う中で、乳児保育では特に、愛情を持った優しい関わりを心掛けてきましたが、子どもの生活面を作業的に行う保育士の姿も見られ、課題として残りました。

- 子どもが自分で考えて行動できるように、保育士があまり口を出さず、子どもが考えて行動できる保育を目指していました。ですが、保育士が子どもを待つことが出来ず、指示を出さないと動けない子どもになっていることを保育士に気付かせることの難しさを感じました。
- 園舎の建て替え工事が始まるまではホールで週1回のリトミックを行っていました。ホールが亡くなってからは、各部屋でできる動きを継続して行いました。また、園庭も狭くなった為、朝会の進め方や園庭の使い方見直し、近隣の公園で「朝の意味ある運動」をしたり、今までは行かなかった散歩に出かけることで子ども達には今までとはまた違う体験をさせることが出来ています。
- 園庭の花壇は休ませることなく、季節の花や野菜の栽培活動を通して花や実が育っていく過程に興味、関心が持てるようにしてきました。また収穫する喜び、手に触れた時の感触や匂いなど五感を育めるようにしました。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」や人権に関する絵本を通して思いやりや、助け合うことを伝えました。また性教育についても自分のからだを知ることから始め、自分も他の人も大切な存在だということを知らせました。

⑥家庭との連携

- 保育のドキュメンテーションは毎日掲示していますが、今年度より子どもの成長の記録について Child Care Web の様式に変更しました。様々な書式が合理的に作成できるように取り組みました。
- iPad や携帯の長時間の動画視聴により、睡眠不足から生活リズムの乱れが目立つため、保護者には懇談会で長時間の動画の視聴により脳が興奮状態で子どもの成長や発達に大きな影響があることから、動画の視聴を控えることと、引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」を伝えましたが継続していないと痛感しています。
- 配慮が必要な子どもについてはケース会議を持ち、包括支援センター、保健センターと密な連携を取り、職員全員で共有し、その子、その家庭に応じた配慮を行いました。
- 4歳児で行われる5歳児健診では必要に応じて保健センターと連携しながら発達相談に繋げていけるようにしました。以前は、5歳児健診の結果を見過ごしている家庭が多くありましたが、近年は保護者が気にして5歳児健診の検査の結果を持って相談に行くケースも出てきています。小学校に就学するまでに少しでも早く手立てが必要なため、保護者自身が感じてくれるようになったことは良かったと思います。

⑦人材育成

- 研修計画に基づいた研修に参加したり、キャリアアップ研修ではオンライン研修や対面型の研修に積極的に参加しました。次年度においても積極的に参加していきます。
- 白鳩会保育メソッドを継承していくために、リーダー保育士が中心となり、「1日の保育の流れ」に沿った保育を徹底してきました。
- 「1日の保育の流れ」を徹底した保育を行う中で、非常勤職員はグループで子ども保育することは出来ても、子どもに対する関わり方が作業的になってしまっていたことに課題が残りました。常勤、非常勤の雇用形態に関わらず一人ひとりが園全体で保育をするという意識を高く持ち、学べるようにしたいと思います。

⑧地域の実態に応じた事業

- 現在は園庭開放しか出来ていませんが、園見学に来られ時に園庭で遊んでもらったり、園児との交流を行ったりして、職員1人ひとりが園での取り組みや活動を伝えて、園に興味を持ってもらえるようにしました。
- 年長児が入学する予定の小学校の授業参観に行く予定でしたが、参観は人数制限があり、行くことができませんでした。今後はコロナの制限が緩和されることから、次年度は小学校との交流が再開できることを期待しています。
- コロナ禍の制限緩和に伴い、以前のように年長児が高齢者施設（デイサービスセンター）への訪問を行い、太鼓演奏や歌を披露して、高齢者との交流の機会を作りたいと思います。

⑨苦情解決

- 第三者委員2名の設置については、入園説明会時に渡す、重要事項説明書、園のガイドブック、園内掲示、5月のクラス懇談会を通じて保護者に伝えました。
- 苦情受付担当者として主幹保育教諭が受付担当者、園長が責任者として、保護者からの意見については24時間以内に対応します。また対応途中にもものに関しては途中経過の報告をします。現状、意見箱を通じての苦情はありませんでしたが、保護者が直接伝えてくることが多く感じました。その他、守口市経由で園舎解体工事に関する苦情がありました。

⑩リスクマネジメント

- 毎月1回の避難訓練（地震、火災）の実施と、消防署との連携を取って年2回の総合災害訓練を行いました。災害時には近隣小学校が一時避難所となっているため、大阪880万人訓練の時小学校まで避難を行いました。
- 守口警察署と連携して年1回、不審者対策の訓練を行いました。
- 看護師が中心となり、感染症や嘔吐処理の方法、SIDS対応、心肺蘇生法（AEDの使い方）などの研修を行います。同時に乳児クラスの職員は日本赤十字社の「健康と安全」研修にも参加し、心肺蘇生法、AEDの使い方等の研修を受けました。
- 備蓄品リストをもとに備蓄品の点検を毎月1回行いました。賞味期限が近いものについては、給食やおやつで消費し、子ども達にも備蓄品や、保存食についての話をしました。
- 怪我や事故防止に備えるために、ヒヤリハットの取り組みを行い、データ化し、事故の原因や事象の検証を行う中で、事故が起りやすい時間帯や場所、子どもの動きなどが見えてきました。

⑪工事等修繕の実績

園舎建て替え工事 566,500,000円